

## 地区別意見交換会（小来川地区） 記録（概要）

開催日時	令和元年10月4日(金)午前6時30分～午後8時03分		
開催場所	小来川林業研修センター(りんりんハウス)		
出席議員	佐藤和之(代表者)	齋藤文明	筒井巖
	田村耕作	伊澤正男	
参加者数	11人 (傍聴者) 斎藤伸幸議長		
報告内容	地域のことを教えてください！		
市民意見	議員意見		
小来川は現在300戸700人だが、小来川村が日光町と合併した当時(60年前)は2,900人いた。人口減少が激しいが、文化祭は戦後まもなく始まり70回を数える。体育祭は56回でオリンピック前から続くなど、村時代からの事業が日光市、新しい日光市になっても続いている。地域の団結力が強く伝統行事として現在も実施している。			
	補足として、文化祭は日本で1番最初にやったそうで、73回になる。		
学校と地域が一体となって小来川の大運動会をやっているが、その反省会では来年の中学生が2名になってしまうとの話があった。今後について、どのように体育祭をやっていくのかは難しい問題である。			
体育祭と文化祭を、地域の行事として学校と一緒にやっているが、もともとは学校とは別にやっていた。10年くらい前に学校の子供の人数が減って、学校だけではできないということから、地域といっしょにやろうということで、お互いに歩み寄って、時期も早めて9月末か10月初めにした。 先ほどの回数について、56回は市に合併してからの回数であって、村のときも回数は分からないが体育祭をやっていたようだ。 そんなことで村時代の形がずっと残っていて、それもあって地域のまとまりもあるのだと思う。			
	体育祭を学校の運動会といっしょにやっているのか。		
小来川体育協会という組織がある。旧日光市のときは市体育協会の傘下だったが、今は独立した形で活動している。			
	めずらしいと思う。今市地域は地区の体育協会がやっているの で、地区が単独で、体育協会と関わらないでやっている体育祭とい うのはめずらしくて、すばらしい活動だと思う。 議長を務めたときにお呼びいただいて、初めて小来川の体育祭 を経験したが、このような形の体育祭があることを知って、小来川 6地区の皆さんが地域のために頑張っている姿を拝見して、すば らしい体育祭があるんだなと感じたことをよく覚えている。 少子高齢化に伴う中学生の減少による体育祭の問題は大きな課 題だと思うが、独立して頑張っている皆さんに配慮できればと。人 的な部分はなかなか難しいので、何らかの形で支援できる体制 が築ければなあと思う。 議長を経験させてもらわないと地域でどんな体育祭をやっている のかわからない。他の議員はわからないのだと思う。 ぜひ、「うちの地域の体育祭は…」ということで皆さんに報告して もらって、知ってもらいたいのかなと思った。		
	これは6地区の体協でやっている？		
そのとおり。 ただ、参加がきびしくなっている地区もあって、今は条件をゆるくして、地区外に出た人も里帰りしてもらって参加してもいい、としている。			
令和になって優勝カップも新しくした。古いものはこの入口に飾ってある。			
これから先、小来川小中学校が現状のまま存続するのか。他の地区の小学校は統合ということで動いている話もあって、どのようになるのか不安に思う。地元の人は今のままが良いという意見だと思うが、どのようになるのか気にしているという現状がある。			
あまり学校からはそういった話はなかったが、地域の中で子供がいなくなってからどうしようかではなくて、今のうちから検討した方がいいのではということで、自治会長会から申し出て、教育振興会とPTAの人たちで話をもらった。その中で現在のPTAの人たちは、今のままが良いということで、逆にすばらしい環境なので地区外の人たちを招き入れるような地元の対策や市の対策が取れないのかといった話があった。ただ、個々の保護者となると悩んでいる人はたくさんいるが、環境はいい子供と離れて暮らすのは大変ということのようだ。			

市民意見	議員意見
	今の話に関連すると思うが、移住される人たちが小来川に来た場合に、地域として、そういった人を迎え入れられる状況が整ってきているのかどうか。空き家対策なども合わせて教えてもらえれば。
協力隊の上吉原さんを迎え入れるに当たって、住んでもらえるような空家を探したが、候補はいくつか挙がったが、いざ個別に当たっていくと、確かに留守にしているが年に数回ほど線香をあげに返ってくるので仏壇を置いておきたいとかで、空家はなかった。 小来川を何とかしたいということで、若手の建設業などの職人集団が活動していて、その人たちに呼ばれて話をしたことがあるが、自分たちで家は造れるが土地の手配となると農地転用とかいろいろと難しく、なかなか進めることができないという話だった。彼らが参考にしたのは宇都宮の城山西小で、農地転用して住宅用に開放した結果、学校周辺に若い人たちが住む住宅が広がっているのを、それをイメージしたようだ。 ただし、地元の業者同士で利害がからむと前に進まなくなってしまうので、そこに行政などが間に入れば話が進むのではないかなと思う。小来川にはそういう素地が確かにあるので、行政には、そういった人材がいるということで活用してもらいたい。	
	地域で小学校を拠点としてその周りが受け入れ態勢、市の補助体制といった話は私もテレビで見たりしている。一番の問題は先ほどもでた農転など手続き上の問題や組織的な問題もあると思うが、皆さんの意志疎通が出来て、そういった地域にしたいという思いが強くなればなるほど行政も受け入れやすくなると思う。皆さんから出していただいたということはそういう話だと思うので、我々も調査研究をした中で定住に対する住宅、そういった形をどのように作れば地域のためにスムーズにできるのか、そういった部分を再度検証し直した方がいいのかなと感じた。
税制優遇も含めてということか。税制が入るので、固定資産税の減免などになると行政が間に入ってもらわなければならない。	
	税制も含めてである。それが根幹になっていなければ、なかなか来てももらえない。企業誘致も税の優遇措置があるので、住宅の関係もできればいいのかなと思う。
今市までは片道15分、鹿沼までは30分、宇都宮までは40分で行ける地域なので、交通条件では小林や豊岡とほとんど変わらない。	
	家を建てる場合の農地転用の件は時間がかかる。市の農業委員会に行って、次に県に行くので。その話を聞いただけで、あらあ(それならいいか)という話になってしまう。 でも、今は農地転用は必ず認められるので、少し待ってもらえれば許可されることを話してもらえれば。タイミングが悪いと半年位かかってしまうと思う。
私は今、小来川と山久保の道路建設促進委員会の役を引き継いでいる。この組織自体はもう20年続いていて、最初は小来川だけだったが、その後山久保も一緒になって、この地域の道路整備を促進しようということ。毎年、自治会長をはじめ、消防団、市議会議員、県議会議員、日光土木、市担当課、県西森林環境事務所などの30数名で危険箇所調査を行っていて、ここ数年で小来川地域は目に見える形で道路整備が進んできた。そんな中で、山間部を通るので道路に枝が出てきて通行に支障を来している場所がある。道路管理者とすれば、それは土地所有者が伐採するのが原則というが、現実にはなかなか伐採とらない。個人にやってくださいといっても、高齢であったりしてなかなか難しい。 今年からできた森林環境譲与税が市に交付されるそうで、日光市は県内でも額が多いという話を聞いたが、それを使って交通の支障になるような立木を伐採することはできないのか。県民税もあってどうなるのかよく分からないのだが、その辺を執行部とよく話し合ってもらえればと思う。	
	森林環境譲与税は、今年は調査の年であって、市ではモデル地区を作りたいようである。これだけ広い面積なので、一斉にアンケートでも取ればいいのだろうが、恐らくどこかモデル地区を作るような話である。 森林環境譲与税と元気な森づくり県民税については、県の方でもようやく住み分けが出来てきたようだ。二重課税は禁止なので、その辺でもう少し時間がかかるかもしれない。
鹿沼は協議会を立ち上げたと聞いている。	
	日光は鹿沼と同じようにはやらないそうである。
どのような考えなのか、早く対応してもらわないと、お金は来るのに体制が整わないでは、「何をもたもたしているんだ」ということになる。鹿沼はやることまで決まっているとも聞いているので、遅れているのではということ。	
早急にどうこうの話ではないが、運転していて見通しが悪く通行に支障を来している木が多くあり、立木の所有者に切ってくれと言ってもなかなか難しいので、ぜひ、そんなかたちで検討してほしい。	
	県民税で対応できるのかどうかになると思うが。

市民意見	議員意見
	日光市議会の中に森林・林業活性化議員連盟という組織を立ち上げている。森林環境譲与税を含めた今後の取り組みについて、調査研究する形ができています。今のご意見もその中で共有しながら、解決方法などについても議論できると思う。
	先ほど意見が出たが、小来川は鹿沼も宇都宮も近いし、日光や今市には10～15分で行ける。もっと遠いと思ったら意外と近いということ。あとは道路整備だと思ふ。
	大室自治会では、道路や通学路の危険な枝などを調査して、自治会長が所有者にお願いして、所有者に対応してもらおう形としている。どうしてもできないという場合は、自治会役員がボランティアで切るという方法で何年もやっている。
通学路は県民税の対象になるはず。譲与税は手入れの行き届かない山林であればOKなので、そういう場所の木が倒れていけば譲与税で対応できるはず。道路に倒れていて危険となると所有者の責任になるが、手入れの行き届かない山林なら譲与税で対応できる。 そういったことを早く決めないと、せっかくお金が来るので動きを見せてほしい。	
	学校の件について、市でやっているのは中学校単位で合併するかしないかをやっている。小来川の場合は中学校をそのまま残すことになっている。ただ、教育の問題は難しく、個々の意見もいろいろ。先ほど出た意見も議会の課題として取り上げてみたい。
校長から聞いた限りでは、今までは併設校だったが昨年度から小中一貫校になった。小学校で中学校単位の勉強をする。逆に中学校に行って小学6年生の勉強もするということで、9年間で小中の勉強を全て終了するというのが小中一貫校。そうすると、例えば6年生になって転校するとか、中学校に進学してから転校すると習っていないことを勉強するような子供が出るかもしれない。小中一貫校は9年間いないと義務教育が終了しないということだと私は理解している。でも、そういったことを地域の人には全く説明がない。地域の人たちは子供がこれだけ減っているから学校は無くなってもしかたないとか、どこと合併するのかという噂が回るが、教育委員会からはきちんとした説明が全くない。校長の権限でこうなりますというのも違うような感じで、どこがどのようにアナウンスするべきものなのか私もさっぱり分からない。 教育委員会では小来川小中学校はあり方は決定しているはずだが、こうなりますというのはどこからあった？	
私が聞いたところ、現在は僻地ということで、現在の学校の合理化には入らず、どこかと合併しなさいということはない。それでも外に出ていく人がいるので、私たちは今のPTAや子供たちはどう思っているのかということで、学校に投げかけたところ、先ほど話したように多少の不安はあるが不満はないということ。先生も、この地域にいれば大きい学校で学びたいれば選べるし、環境の良いこの地域にいたければいられるしということで、2つの選択肢があることはメリットではないか？というような説明もあった。そういう考えもあるんだということで、PTAは全体としてそういう考えである。 学校も努力しているようで、一貫校になる前から中学校の先生が小学校で教えたり、地区外の小学生との交流授業ということで落合西小に行って活動したりしている。ただ、努力はしていると思うが、はた目から見ると、子供たちのクラブとか共同作業の面でどうなのだろうという心配をしている。	
	私の地域でも三依地区というところがあり、小来川地区と同じような状況で、入学式や卒業式もあつたりなかつたりしている学校がある。ただ市は、通うのに遠いという問題もあつてそのまま残すとしている。それで小学校を新築するというので入札を行ったところ、低入札が何度も続き、結局校舎は改修して使うことになり、公民館や支所を複合した体育館だけ作り、生徒が少なくなっても学校は残すという方向。 ただ、学校を存続するか統合するかの地元の人たちの話し合いの中で、先ほどの話にもあつたが部活や共同生活を考えると、あまり少ない人数でやっていくのはどうなのかという保護者もいて、せめぎあいはあつたようだ。市としては、小来川は残す、三依も新しい体育館を作ったので残すということだが、そうは言っても子供たちがいなくなったらどうするんだという心配は残っているから、推移を見ながらいろいろ考えながらいくしかないのかと思っているところ。
	教育振興会とPTAと学校とで話し合うのがベターだと思う。地域の人たちは子供少なくてかわいそうだからとか、団体活動できないから合併した方がいいと。でも保護者に聞くと、部活で今市の方に行くのは大変だからとか、個々の意見はいろいろ。地域で考えることも大切だが、現在学校に通っている子供や保護者も大切なので、地域でどうするかは教育振興会という組織があるので、組織を生かすのが良いのではないかなと思う。

市民意見	議員意見
	教育振興会には一貫校の説明がないということ？
私は教育振興会の役員でもなんでもないが、少なくともないのだと思う。	
校長先生は市の方針を話しただけで、学校としてどうだということは絶対に言わない。今年から変わったと、一貫校とはこういうことだという話を聞いた。	
何気なく教育振興会という話をしたが、これも小来川地区特有のもの。全戸加入で年間3,000円を集め、年間80万円ほどの予算を持っている。学校へ行っている人も、終わった人もこれからの人も、地域で学校を守ろうというもの。	
これは日光市内で小来川だけのようだ。	
教育振興会は財産、山林も持っていて、市と分取契約を結んでいる。ただ組織があるうちはいいが、将来的にどうなるのかという問題も出てくる。	
	分けるところがなくなってしまうから。
面積も5町歩あって、古いものは70年になる。切り出すのが難しいということもある。土地は市のもの。	
	あくまでも上物が教育振興会の物であり、子供たちのために使うということになる。
子供たちが他所にいつてしまっ、他所の学校で小来川の子供たちに、という訳にはいかないだろう。	
	教育振興会だけでなく、今日来ている皆さんが良いアイデアを出していただいて、どのような形にするか決めてもらえれば。
子供たちのために使うといえばそれまでだが、結局は市の予算の不足分を補っているようなもので。それが子供たちのためになるのだが。	
小来川の農業について、あと10年と言わず、5年もすれば田んぼは…。私のところも農業機械にお金はかけられないし、息子にも機械を買って農業やれとは言えない。トラクターは馬力10万円かかるし、コンバインも1条100万円の時代で、何百万円もかけて農業を続けるという話ではできない。ただでさえ獣害もひどくて、明日食べようと思ったとうもろこしを猿が持っていつてしまうので。	
	農業の後継者や担い手がないということと、子供はいてもやらないということか。
(農業を)やれとは言えないでしょう。	
	商業でも、大型店舗が出ると儲からないからやれと言えないということがあるが、それ以上に農業の深刻さはあるのだろうと受け止めている。
	農地も空家も貸して、都会の人が農業をやりながら住んでもらうような取り組みもあるが、前向きに「来てもらえないか」という形をとることができれば、そんな動きもできるのではないか。地元での理解や受入体制がないと受け入れることは難しいと思うがその辺はどうか。
ふれあいの郷小来川で農園をやっている。明日がちょうど収穫になるが、間には地元の人が入っている。以前、三依でやっていたものを小来川でやるようにした。県外の人も来るし今市の人も多い。私も貸してもいいと思うが構造改善していないので、借りてくれる人がいない。田んぼなどは構造改善してあれば、小来川の方は特に今市から問題なく。皆さん、構造改善する気力もなくなっているし。	
	基盤整備されていない場所は農業公社にしても、大型機械を入れられない。
	都会の大きな会社や食品関係を扱っている会社などは、職員の食に対する経験という部分で、子供を連れてきて田植えをしたり稲刈りをしたりして収穫を楽しむという会社は結構ある。ただし、受け入れられる地域と受け入れてくれる人たちが機能しないと難しい。 私の地元でも打診があって「受け入れよう」ということで、取り組んだ時期がある。そうすると、会社の人たちは貸し切りバスで来て、時間に来て少し稲刈りをして、収穫したものを食べたり、食事したり、小来川であればきれいな川がたくさんあるので川遊びをしたりで、一日楽しむようなことができると会社は喜ぶ。 しかし受け入れる側としては、田植え後の稲刈りまでの管理とか、餅つきとなれば来てすぐにできるような準備をしておくとか、そういった協力態勢ができれば、すぐにでも会社関係に投げかけられる今の時代なのだが。
その話は基幹労働者というか、きちんとした農業生産者がいて、隣の田んぼを俺が見てやるよという関係でなければできないのでは。現状はそれができないので。	
	確かに、まずはその部分が先かなと思う。
	先にそういったものに乗っかってしまえばいいかなと思ったのだが。

市民意見	議員意見
	これからの時代では、そういった方向性も必要な部分がある中で、まずは根幹の担い手の問題を、先ほどの定住も含めて、どのようにいい形にできるのかということで。
農業で人を呼ぼうと誰もが考えるが、いつもそこでネックになるのが獣害。ネットを張って、メッシュを張って、草刈りも大変で。	
	三依で農業公社が主体になって、かなり広い土地を借りてやっているが、●●さんが指導していて、その取り組みはモデルケースになるのではないか。
この地域には食品店や生活用品を売っている店が一つもない。高齢化が進んで運転できなくなる人が増えていくので、デマンドバスの拡充を図ってほしい。私はまだ使っていないのでよくわからないが、時間が決まっています予約制でなかなか難しいようだ。	
	デマンドバスを利用しやすい形にしてほしいということか。
	私は吉沢に住んでいるが、今市南部地区でデマンドを運営している。市からは300万円もらっている。地区ごとに利用度が違って、吉沢は病院や提携先に近いので乗らなくてもいいという人もいるが、杉の沢はタクシーだと2,500円かかるところ、500円で乗れるので一番使っている。近い遠いで利用度に差が出ているのが課題。 私も70を超えて、免許返納したら買い物足がなくなるのは同じで、これはどこでも同じ共通点だと思う。小来川でも近い遠いという距離感の問題は同じかなど。 デマンドという言葉が出たので、現状を説明したが、1軒3,500円を払って…
	小来川のデマンド交通と土沢の場合は形態が違うので、その話は当てはまらない。今のデマンドバスの形態をどのように利用するかということで考えないと話が進まない。現在のデマンドバスは予約制で時間が決まっています不便ということだが、自分の乗る近くまで来てくれて、均一で200円なので、恐らく利用しやすいと思うが。
	予約はどうすれば。何回走っているのか。
	地元に住んでいる人が登録して、その人が電話でどこまでいくかを伝えて、それで1人でも来てくれて、滝ヶ原でも南でも来るし、宮だつて中のほうまで入ってくれる。そういった便利さはあるので、時間が1時間前じゃなきゃだめとか、朝早いときは前日じゃなきゃだめとか、そういったものを皆さんが今日出して、それを我々が取り入れて担当課に話して、もう少し使いやすさとか、それが今日のポイントである。
	もう一度うちの方を説明すると、吉沢と南部地区は月水金で、時間も決まっていなくて、タクシー会社と提携してローテーションでタクシーが来る。
	それは人口からいっても、現在の小来川地区には当てはまらない。
	そもそもバスとタクシーの違いもあるので。我々も常任委員会の視察で、デマンドの先進地に行ったが、1番の解決方法は予約制を簡単に出来るソフトを取り入れた自治体はすごく簡単に出来てしまう。しかし、相当なお金がかかるので、行政が出せる状況にないということ。視察に行った岡山の自治体は、すばらしい段取りで予約から何からボタン1つで、どこの誰さんの次にどこの誰さんについてというふうに、簡単にできるソフトがある。これであれば小来川のような地域でもできると思うが、いかんせん高いので行政で負担するのは難しい。解決策としては皆さんで知恵を絞って、どういったものが一番いいのか。人的に予約を確保できる体制ができたとか、それが出来れば解決の方向にいくのだろうが、その辺を皆さんで知恵を絞りながら、良い方法を見出してもらえればありがたい。 私もまだ50歳だが、恐らく同じようになっていく。街中に住んでいても、そういう不安はあるので、皆さんのお話は理解できる。将来的に日光市としてデマンドバスもタクシーも含めてどうしていくかというのは大きな課題である。今市南部地区のような地域ごとのやり方もあると思うので、各地域でできる体制を整えることが、これからの日光市の高齢化社会を支える根幹になるような気がする。

市民意見	議員意見
	<p>補足すると、落合地区と小来川地区が先行してデマンドバスが走っている。それと土沢周辺は自分たちが3,000円とか出して、自分たちの企業体みたいな形で、お金を500円払うので、形態が違う。デマンドバスには基準があり、土沢地区のように人数の多いところは難しい。</p> <p>自分たちの地域も入れてほしいということで地区が増えれば、先程のソフトの話にもなるのだろうが、今のところ難しいので予約制を簡単にするとかだろうか。</p>
<p>この地域は車を自分で運転できる人が大多数だが、我々とすれば、バスが走っているということで安心感が担保されている部分がある。赤字を理由に、財政が厳しいからやめるというのが一番怖い話。これからが必要な時期なので、もう少し我慢して、現在は赤字でもいずれ黒字になるときが来ると思うので、その点は議会にも力添えをお願いしたい。</p>	
	<p>そこは絶対的なところだと思う。皆さんはまだ運転できるが、これからもっと交通弱者が増えてくるので。</p>
	<p>まさにそこが危惧されるところで、本当はまだ車に乗れるうちからデマンドバスを利用して欲しいのだ。そもそもは空気を運ぶバスだった、誰も乗っていないから。コストがかかるので、デマンド交通にすれば経費がかからないのではと思ったら、逆に増えてしまったという状況。その辺がネックなので、できればみんなで利用してもらえれば。</p>
<p>我々にすれば、安心安全の象徴だ。</p>	
	<p>個人的には、皆さんで利用してもらいたいと思う。</p>
	<p>その辺も含めて、皆さんでいろいろ検討してほしいし、我々も。</p>
	<p>もう1点聞いておきたいのが、小来川で取り組んでいるライトアップ事業について、小来川全体で取り組んでライトアップで活性化を図っているというふうには私はとらえていて、すばらしい取り組みで協力心があるからこそ成せる技かと思うが、きっかけ、どんなふう継続して、今後どんな方向性に持っていきたいのか、教えて欲しい。</p>
<p>熱意のある1人の方が地域おこしをしようということと、福祉のまちづくり協議会。この地区は10年以上前に青年団がなくなり、行事はすべて自治会協議会で実施していたが、自治会長だけで苦慮していたので、若い人たちに活躍してもらえないかという話になり、各地域で募ったり自治会が探したりして組織した。</p> <p>ライトアップと盆踊りでにぎわい創出ということで、お店をやったりふれあいの場をつくったりしている。今年は11月1日と2日がライトアップになる。小来川地区内の神社や寺、紅葉の名所などでやっている。</p> <p>今後として、活動する人がある程度限られ、どんどん若い人が入ってくるかというところでもない。後継者がいないということで、毎年やるのは大変なようである。</p>	
<p>ライトアップ事業には、地域まちづくり提案制度を利用してライトを買った。去年も申請したが、小来川は1度やっているからと予算をもらえなかった。これは使い切らずに予算が残ると、他の地域に流してしまっているようだが、どうなのか。</p>	
	<p>私は自治会長を1期やったが、3年間で世帯数に応じて地域の振興策という形でもらえる。3年使い切りで終わりになってしまう。その次に使う場合は、違う自治会と話し合いをして2つの自治会で使うならもらえる。</p>
<p>それは地域で決めている。日光地域は自治会長を中心メンバーとして、10人で選考委員会を組織して事業を選考し、最終的には市の審査があって認められる。地域振興といっても市がやるべきことというのが1つの基準になっている。</p>	
	<p>今の提案は、それぞれの地域で使い切らずに返すなら、使いたいところで使ってもいいのではないかと。</p>
<p>それは「だめ」ということになっている。せっきく9地域で3,600万円なので、残ったところが使いたいところにあけてもいいのではないかと。</p>	
	<p>事業の効果として、地域の皆さんがどんどん参加して地域を盛り上げていきたいというふうな形で、参加者が多くなってきていると捉えてよいのか。</p>
<p>メンバーは少し増えていると思うし、地域外からの人も来て賑わいも出てきているので、それを見て協力してくれる人が出てくればということで、自治会協議会もバックアップしていくなっている。</p> <p>ただし、運営費がゼロなので、当初は小来川では3年間分の活動費として各自治会で寄付を募り、60万円位を集めた。それを運転資金とし、活動の中でお店などをやって自分たちでも稼いでいる。地域の賑わいも出てきたと思う。</p> <p>心配なことは、やっている人が固定化すると疲れが出てくること。私たちが経験があるが、子育ての世代になってくると活動に掛かりきりになれないということで厳しい。</p>	

市民意見	議員意見
	後継者の問題あるが継続できれば。
(ライトアップの)照らす会は年齢制限ないので、またバックアップできればということはある。	
<p>公共施設の問題で、小来川地区は専門部会を作り、4回ほど会議をやって来週月曜日には最終をやってまとめることになっている。方向としては地区センターと集会施設、保育園、学校をどこかにまとめた方が良さだろうと。そこで人の交流もできるので、未来志向で、小来川の良いところを売り出していくためにも、その辺は効率化していいのではないかと意見である。</p> <p>公共施設の一環で、各地区の集会施設の集約について、将来的に地域に譲渡するので5年以内に回答してほしいとのこと。さらに滝ヶ原は委託管理費を貰い、山久保は市が電気代を払っているが、これについては来年からゼロにするという。施設の移管は、大半のところはなくなっては困るので受け取ると思うが、保険代や法人化とかの問題が出てくる。過疎のひどいところの施設が対象になっていて、自治会で作るのが当たり前のだろうが、それが出来ないで行政で作ってもらっている経緯。また公民館以外の機能も持たせているので、滝ヶ原の場合は立派な施設になっている。年間の維持費は現在16万円かかっているが、不足分の6万円を負担しているが、来年からはゼロになる。稼働率では自治会は2割で、それ以外が多い。昔のことなので市と自治会の契約は何もなく、世帯数15で高齢化率も高く、10年経つと10戸位になりそうなので、施設を受け取ることが非常に困難だと思う。</p> <p>いざというときの一時避難場所であり、平成26年の雪害を見ても施設は残さなければと思うが、15戸の自治会で維持するのは非常に厳しい。例外はないということだが、地域に寄り添った形で相談しないと過疎化が進んでしまう。いつ出ようかと思っていた人が潮時だということになるし、1人抜ければバタバタ続く可能性がある。もう少し過疎化対策として考えてほしい。公民館の新築時の500万円の補助を出す制度があるのであれば、それを回してもらおうなど、もう少し考えてもらわないと厳しいし、議会にも理解してほしい。</p>	
	滝ヶ原の自治会長は協議会長なので、全体の意見のようだが、他の自治会も同じだろうか。これは第3期日光市財政健全化計画の一環で進めていることだが、他の自治会でも同じ考えなのか。
宮小来川でも、公民館は年数が経ってきて、これから維持や修繕に相当お金がかかると思われる。今後、市からは維持管理に関する助成が全く無くなってしまうのかどうか、お聞きして後日でも回答いただきたい。	
	自治会の公民館は、町と山村とでは、実際は公民館として使っても事業が異なり、名前も違っている。町の人が地域にきて利用する、そのための補助金が農の予算や林の予算から出た。町と村の交流ということで、そのための管理費も出る。山村の人たちは、そういう予算を利用しているので、管理費としてもらっていて、その施設を公民館に利用している。しかし、財政計画でそういった補助金もカットするとなると困ってしまうだろう。滝ヶ原からも宮からも出たが、他も同じだろうか。南は？
この前の説明では、地元に移すなかで、修繕についてはある程度配慮できるが、その後の維持管理には一切お金は出ないとのこと、我々が受け取る時に直近の修繕やこんなことをしてほしいというもの、屋根のペンキを塗ってくれ、浄化槽を補修してくれといったことを受け入れてもらった上で、「それなら受けますよ」というやり取りになるように捉えている。集会の場所がなくなってしまうので、やむを得ないかなと。最初に法人格を取るのにどれ位の費用がかかるのかや保険、税金など、試算して出してくれると言っていたが。	
	(まとめ) 今日皆さんと協議したものを我々も議員として取り上げて、執行部にも要求したいと思う。 皆さんも地域のためにご尽力いただきたい。何かあれば「議会への手紙」というものがあるので、寄せてもらえば議会全体で対応できる。
<p>【班としての総括・所感】</p> <p>○市民の意見：日光市になる以前の村であった当時の事業が、日光市になってからも続いている。地域の団結力が強い。伝統行事としての現在も残っているものは自治会協議会で実施してきたが、最近では若い人たちの有志が盆踊りでの出店や、小来川各所のライトアップ事業を始めている。</p> <p>○議員の意見：学校の統合、自治会の運営、地域住民高齢化により、生活のためにデマンド交通の拡充が必要。</p> <p>○所感：人口減少の中で地域の人たちが創意工夫し、伝統を守っている。</p>	
<p>【今年度の地区別意見交換会についての課題】</p> <p>地域の問題について話し合った後は、要望が多くなる。</p>	
<p>広報広聴委員長 様 上記のとおり、報告いたします。</p> <p style="text-align: center;">令和元年12月20日</p> <p style="text-align: right;">第3班 代表者 佐藤 和之</p>	